

2022 年度:こども園自己評価の報告書 北緑丘こども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<p>園内研究テーマを「人とつながりを豊かにし、主体的に経験や物事に取り組める環境づくり」とし、子ども達が主体的に遊びを楽しめるような環境づくりを考えていった。取り組みを進めるにあたり、「絵本」「身体づくり」「自然」の3つのグループに職員が分かれて取り組み、保護者にアピール時期を決めて玄関掲示で保護者に伝えていった。</p> <p>教育保育環境ガイドラインを活用しながら公開保育を実施した。職員一人一人が各クラス内を観察し、良い点、改善点などを貼り出し、全職員が環境づくりを意識できるようにしていった。</p>
健康支援	<p>保健年間計画に基づき、身体計測や園医による健康診断などを通して園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任と保健師が連携を取り、健康管理を行なった。健康や身体などについての講話を実施し、園児一人一人が自分の身体や健康を意識できるようにしていった。</p> <p>感染予防や保健指導などを「ほけんだより」で保護者に発信していった。感染症に関して、保健師を中心に園児の体調管理をしていき、保護者に協力していただきながら感染拡大予防に努めた。</p>
安全管理	<p>施設の安全点検を毎月複数の職員で行い、危険箇所や危険が予測される箇所について修理、修繕を行い迅速に対応し、事故防止に努めた。</p> <p>火災、水害、地震、不審者対応など様々な状況に対応できるように毎月避難訓練を実施し、二次避難を想定しての訓練も実施していった。職員がスムーズに消火器を扱えるように消防署に水消火器を借りて消火訓練を実施した。防犯対策として「いかのおすし」の紙芝居を見て自分の身を守ることの大事さを伝えていった。5歳児は、横断歩道の歩き方を知ったり、標識を意識して歩けるように近隣の道を歩いた。</p>
食育の推進	<p>各クラスで野菜を育て収穫して食べた。自分たちが育てた野菜なので苦手な物も食べてみようとする子ども達の姿があった。給食の食材に触れる機会をもち、ちぎったり皮をむいたりなどしたことを年長児のリーダーさんが全クラスに放送して伝えていった。</p> <p>季節や行事食の献立の由来を献立展示ケースの横に掲示したり、クイズ形式にして園児や保護者に食への興味、関心をもってもらえるようにした。</p>
子育て支援	<p>送迎時には、保護者に子どもの様子を伝えることを心掛け、子育ての不安や悩みについて共に考えていけるように努めた。コロナで対面の面談が難しい状況の時には ZOOM を利用しての懇談を実施していった。</p> <p>地域支援事業は、感染予防の観点から定員数を決め事前申し込みで実施。事前に利用されるお子さんの月齢が分かり、そのお子さんにあった内容を考えて取り組むことができた。</p> <p>今年度から北緑丘校区の親子がこの地域で集える機会が増えるように社会福祉協議会主催の子育てサロン『ふたば』を北緑丘こども園内で実施した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	

<p style="text-align: center;">教育・保育内容</p> <p>・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現</p>	<p>コロナ禍の為、園内の職員の人数や時間を制限して公開保育を実施した。公開保育では、『教育保育環境ガイドライン』を活用しながら各年齢の保育内容、取り組み方、環境設定などを点検し、次に繋がる手立てを考えて実践していった。</p> <p>今年度プール遊びを実施。感染症対策をしながら、入水人数、時間などを考えながら取り組む。3年ぶりのプール活動に大喜びの子ども達であった。</p>
<p style="text-align: center;">特別支援教育</p>	<p>保護者の思いを大切にしながら子どもの育ちに応じたねらいや手立ての方法を保護者と共に確認しながら個別支援計画を立てて取り組んでいった。巡回指導を受けながら職員間で支援の在り方を考えて取り組んでいった。</p>
<p style="text-align: center;">職員の資質の向上</p>	<p>アドバイザー研修では、各クラスが抱えている教育保育の課題、現状に対して保育者自身が体験しながら具体的な活動を学ぶことができ、実践していった。</p> <p>人権の視点を大切にされた教育保育を進めていくために、グループワークで意見を出し合いお互いの考えを知り、日々の言葉がけや関わり方を振り返るなど共に学んでいった。</p> <p>公立こども園自己評価表を活用し職員一人一人が振り返り、自身の課題を明らかにして取り組んでいった。</p>
<p style="text-align: center;">幼保こ小中の連携</p>	<p>就学する各小学校と連携を図り、子どもの様子を見に来てもらったり、書面通知や口頭で伝えたりして丁寧に引継ぎを行っていった。</p> <p>小学校・義務教育学校の入学に向けてのお知らせをコドモンで配信していった。</p>
<p style="text-align: center;">関係者評価の取り組み</p>	<p>今年度は評議員会を集合開催でき、園の取り組み方、子ども達の育ちなどを直接見ていただき、プロセスを大事に教育保育をしていることを評価していただいた。また『教育保育環境ガイドライン』を使用して公開保育を実施し様々なご意見をいただくことができた。</p> <p>保護者アンケートの結果を受けて職員間で教育保育を振り返り、次年度への取り組みを考えていった。</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の発信	コドモンを活用して子ども達の姿や実践内容を配信していく。ドキュメンテーション等で保護者に分かりやすく工夫しながら教育保育内容を伝えていく。
地域支援の充実	園の自然財源の竹林（バンブーランド）を地域の親子や近隣の園に開放し交流をもっていく。遊びの交流の中で、子どもの育ちを伝えたり、安心して過ごしたり相談できる場を作っていく。

令和5年（2023年）3月31日
豊中市立北緑丘こども園
園長名 稲生 直美